

2019年7月10日発行

東海生研 ～メールマガジン 第175号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

***** 《もくじ》 *****

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
 - ☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (9月30日)
 - ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 7月度研究会 (7月18日)
 - ☆東海農政局 食品安全セミナー (7月25日)
 - ☆名古屋大学協力会 講演会 (9月20日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆2019年度 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
 - 独創的な人向け特別枠「異能 vation」プログラム (総務省)
 - ☆2019年度新規委託研究 (第二弾) (国立研究開発法人情報通信研究機構)
 - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
 - A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ
 - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
 - A-STEP 機能検証フェーズ 実証研究タイプ
 - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
 - 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ
 - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
 - 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
 - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
 - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
 - NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
 - ☆2019年度未来社会創造事業 (探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)
 - ☆2019年度戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発) (JST)
 - ☆民間の競争的研究資金
 - ☆民間等の資金
- 5. 新技術情報について

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (予定)

当研究会は、第2回セミナーを下記の通り開催しますので、ご案内致します。

【開催日時】 2019年9月30日 (月) 13:30~17:00

【開催場所】 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 12階 1206号室&1207号室
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【内容】 会場ごとの講演数及び講演順は未定、演題は仮題です。

・食品部会

演題：交流電界ミニマムヒーティングプロセスによる食品の高品質殺菌

講師：植村邦彦 氏 (農研機構 食品研究部門)

・作物部会

演題：食用サボテンの研究および産業利用における最近の展開

講師：堀部貴紀 氏 (中部大学応用生物学部)

・畜産部会

演題：周年親子放牧による高収益繁殖経営

講師：山本嘉人 氏 (農研機構 畜産研究部門)

・林産部会

演題：森林環境税・森林環境譲与税の活用による森林整備と研究展開

講師：中井毅尚 氏 (三重大学大学院生物資源学研究科)

・水産部会

演題：沿岸域貧栄養化対策としての複合養殖技術の開発

講師：渡辺諭史 氏 (水産研究・教育機構 増養殖研究所)

【主催】 農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【交流会】 ウィンクあいち12階 1206号室 参加費有り

【申込み】 講演会は参加費無料。申込締切日：9月17日 (火)

参加申込みは、後日、当研究会ホームページに申込書を掲載致しますので、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX：052-789-4586

E-Mail：bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (予定)

当研究会は、第3回セミナーを下記の通り開催する準備を進めていますので、ご案内致

します。

【開催日時】 2019年10月31日（木） 13:00～17:00

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 12階 1201号室

（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【内容】 全体タイトル「新品種育成を巡る状況と東海地域発の新品種紹介」

講演の個別内容

(1)品種の権利保護、種苗登録を巡る現状と課題について（1課題）

(2)野菜におけるDNAマーカー利用技術の進展について（1課題）

(3)東海地域の各県で育成された新品種の紹介について（3課題程度）

ポスター説明：東海地域発の新品種についてポスター展示を行います。

交流会でも新品種の紹介をする予定です。

【主催】 農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【交流会】 ウィンクあいち12階 1201号室 参加費有り

【申込み】 講演会は参加費無料。

参加申込みは、後日、当研究会のホームページに参加申込書が掲載されますので、必要事項をご記入の上、FAX又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX：052-789-4586

E-Mail：bio-npo2*y4.dion.ne.jp（*を@に書き換えてください）

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 7月度研究会

【開催日時】 2019年7月18日（木） 14:00～17:00

【開催場所】 名古屋市市民活動推進センター

（名古屋市中区栄三丁目18-1）

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階 集会室

下記の「開催案内」のURLを開いて地図をご覧ください。

【内容】

講演1：14:00～15:20

「化石資源 再生可能エネルギー」

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 佐藤之彦 氏

講演2：15:30～17:00

「土壌を創生する ～食糧生産を根底から創り換える～」

国立研究開発法人 農研機構 野菜花き研究部門 篠原 信 氏

【開催案内】 中部異業種間リサイクルネットワーク協議会ホームページの「行事案内」を
ご覧ください。 <https://www.crn2011.jp/>

【参加申込み】 定員 60 名、参加費 会員 無料、非会員 1,000 円（学生 500 円）
事前申し込み不要、当日受付

【懇親会】 講師を囲んで懇親会を実施。会費 3,000 円
中国料理 シルクロード上財津店 （名古屋市中区大津 1-11-6）

.....
☆食品安全セミナー (東海農政局)

【開催日時】 2019年7月25日（木） 13:30分～15:30

【開催場所】 豊田中央図書館（多目的ホール）

（愛知県豊田市西町 1-200 豊田参合館 6 階）

東海農政局 第 1 会議室（1 階）（愛知県名古屋市中区三の丸 1-2-2）

会場案内図は下記プレスリリースの添付資料を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【プレスリリース】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190627.html>

【主催】 東海農政局

【内容】

第 1 部 13:30～13:50

「食品安全と行政の取組 ～消費者の部屋の取組～」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課 職員

第 2 部 14:00～15:30

「食品の安全を守るための行政の取組」

消費者庁 消費者安全課 職員

【開催案内チラシ】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/190627-1.pdf>

【参加者募集】 募集人数 50 名

参加費：無料 対象：一般消費者

【申込み】 申込期限 7月23日（火） 17時まで

参加申込書は上記プレスリリースの URL にある申込様式に記入し、インターネットで送信、あるいは上記開催案内ちらしにある申込書に必要事項をご記入の上、FAX 又はインターネットでお申し込み下さい。

.....
☆名古屋大学協力会 講演会

「脱炭素社会構築に貢献する森林資源利用 ～イノベーション最新動向～」

【開催日時】 2019年9月20日（金） 14:00～17:00

【開催場所】 名古屋大学 ベンチャービジネスラボ（VBL）内 3階 ベンチャーホール
会場地図 <http://www.>

【主催】 名古屋大学協力会

【プログラム】

講演1：「木質バイオファイナリーの現状と課題」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 福島和彦 氏

講演2：「森一街連携を構築する都市の木質化」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授 山崎真理子 氏

【個別相談会】 16:40～17:00

【お申込み・お問合せ】 名古屋大学協力会事務局

電話／ファックス：052-782-1811 E-mail：kyouryokukai@aip.nagoya-u.ac.jp

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、
下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の
URL は下記の通りです。 <http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019年度競争的研究資金等について

☆2019年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）独創的な人向け特別枠
異能 vation プログラム （総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000280.html

分野等：ICT 分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる
可能性がある奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援する。

公募期間：2019年6月3日～7月31日

.....

☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム A-STEP （JST）

機能検証フェーズ 試験研究タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

公募要領：https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou_koubo.pdf

分野等：大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援対象とする（医療分野を除く）。コーディネーター等の橋渡し人材が企業と大学等とを調整の上、三者連名で大学等の研究代表者が代表して提案書を作成し応募する。

研究開発期間及び研究開発費：1年、上限300万円

公募期間：第2回目：2019年5月23日～7月23日正午

注意：同一研究代表者が、(1)A-STEP機能検証フェーズへの複数課題の応募不可。

(2)試験研究タイプと実証研究タイプの両方への応募不可。(3)試験研究タイプの第1回と第2回の両方への応募不可。

.....

☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム A-STEP (JST)

機能検証フェーズ：実証研究タイプ

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が保有する研究成果、知的財産の活用のための試験研究や実証研究を支援する。

公募期間：2019年5月23日～7月23日

.....

☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-Aタイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長10年

研究開発費：実施料納付、原則1億円～15億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第1回目締切 2019年7月31日、11月29日（第2回）、2020年3月31日（第3回）

.....

☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：2019年3月29日～7月31日（第1回）、11月29日（第2回）、2020年3月31日（第3回）

.....
☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：2019 年 3 月 29 日～7 月 31 日（第 1 回）、11 月 29 日（第 2 回）、
2020 年 3 月 31 日（第 3 回）

.....
☆2019 年度未来社会創造事業（探索加速型・大規模プロジェクト型） (JST)

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/open-call/research/r01/index.html>

分野等：

1.探索加速型（「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域、「共通基盤」領域）

2.大規模プロジェクト型

公募期間：2019 年 5 月 15 日～7 月 24 日

.....
☆2019 年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発） (JST)

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム

https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/current/proposal_2019.html

分野等：SDGs の達成に向けて目指すべき姿（ビジョン）を描き、国内の地域における社会課題を特定し、その解決策を実証する。さらに、実証された解決策を他地域に展開するための事業計画を策定する。

公募期間：2019 年 6 月 3 日～7 月 29 日

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください（後日掲載）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

.....
<民間等の資金>

☆2019 年度農林水産業みらいプロジェクト（一般社団法人農林水産業みらい基金）

<http://www.miraikikin.org/support2019.html>

分野等：以下の支援に取り組むことを通じて、農林水産業と食と地域のくらしの発展に貢献することを目的とする。

1. 農林水産業の持続的発展を支える担い手への支援
2. 農林水産業の収益力強化に向けた取組みへの支援
3. 農林水産業を軸とした地域活性化に向けた取組みへの支援

公募期間：2019年6月7日～7月31日

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品機能性関係

○医学的エビデンスのある骨粗鬆症対応商品「抗ロコモ緑茶」とその関連商品の開発

三重大学大学院生物資源学研究科は、三重県農業研究所、三重大学大学院医学系研究科と共同して、運動器の機能障害（ロコモティブシンドローム）をもたらず骨粗鬆症予防に有効な機能性成分を多く含む茶葉（「抗ロコモ茶」）を生産し、その商品化を図るための研究を行いました。その結果、また、抗骨粗鬆症に効果を示す茶葉成分は、ビタミン K とエピガロカテキンガレートであり、マウスの骨密度低下抑制には 0.03%の茶粉末添加が必要となることが明らかになりました。茶栽培において遮光条件を最適化することにより、ビタミン K とエピガロカテキンガレートの含有量を高める栽培法を開発しました。さらに、

茶葉を粒径 20 μ m 以下の微粉末にすることで生体利用率（腸管吸収率）を大幅に高める加

工法が開発されました。ヒト試験において1日当たり抗ロコモ茶 3.66g を4週間摂取したと

ころ、骨代謝関連マーカーに変化は見られませんでした。骨粗鬆症の改善に有効とされる血中のビタミン K 濃度が有意に増加しました。

・農林水産技術会議事務局 HP：研究紹介 2018

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27028c.html

☆園芸関係（果樹）

○温暖化に伴う、ブドウ着色不良の発生拡大を予測

「巨峰」などのブドウの黒色品種は、果実の着色が高温で阻害され、商品価値が低下します。日本のブドウ産地では、地球温暖化に伴い、着色不良の発生が増加し、大きな問題となっています。このため、農研機構では、地球温暖化が更に進んだ場合における着色不良発生地域を予測し、マップで示しました。さらに、施設栽培や温暖化対応品種などの適応策の導入によって発生地域を縮小できることがマップで示されました。東海地域におけるブドウ産地においても、地球温暖化を見据えた対応が必要です。

・農研機構 HP：研究成果

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/131026.html

ブドウ着色不良発生頻度予測 詳細マップ

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/20190617_nifts_shousaima_p.pdf

☆病虫害・獣害関係

○登録農薬の少ない地域特産作物（マイナー作物）における天敵利用技術の確立

農研機構九州・沖縄農業研究センターは、西日本農業研究センター、鹿児島県農業開発総合センター及び宮崎大学と共同で、オクラ（春夏作物）とエンドウ（秋冬作物）をモデル作物として、露地栽培作物での天敵温存植物を利用した土着天敵の保護及び活動強化技術を開発するとともに、化学的農薬及び物理的防除を組み込んだ IPM 技術を開発し、マニュアルを作成しました。オクラでは、ソルゴーやバジル類などの複数の天敵温存植物を組み合わせ、アブラムシ類の発生を抑制し、農薬散布回数を3分の1に削減できました。エンドウでは、アザミウマ類には捕食性カメムシを、ハモグリバエ類には寄生蜂を有力天敵として選抜し、ソバ、バジル類、カラシナ類を天敵温存植物として用いる技術を開発しました。

・農林水産技術会議事務局 HP：研究紹介 2018

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27009b.html

☆森林・林産関係

○半炭化処理による高性能木質舗装材の製造技術開発

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所は、奈良県森林技術センター、東北工業大学、ニチレキ（株）、（有）地域資源活用研究所と共同で、木材チップを半炭化処理し、常温施工可能な接着材で固め、長寿命で環境負荷の小さい高性能な木質舗装資材を開発しました。この舗装資材は、耐久年数20年、従来のアスファルト舗装材よりも50%軽量化し、使用後は燃料とし、その灰は資材としてリサイクル可能です。その利用実証試験では、開発品はクッション性に優れ歩きやすいことが明らかにされました。5年後にはカラーアスファルトの価格以下で施工する予定とのこと。また、この舗装材を地域内で製造・利用するシステムが提示されており、地域における雇用創出が期待されます。

・農林水産技術会議事務局 HP：研究紹介 2018

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/pdf/27014c.pdf

.....

編集後記

令和改元後、初めての選挙となる参議院選挙が7月4日に公示され、7月21日（日）が投票日となります。日本の未来を決めるのは結局のところ選挙を通じて表わされた民意です。選挙の結果によって、一定の政策が実施され、これが経済・社会に反映し、その結果が自らと隣人、子供、孫の世代の生活に大きく影響してきます。いずれにせよ、自らの一票を大事にしていきましょう。

ところで、最近読んだ本に、山田英夫著「ビジネス・フレームワークの落とし穴」（光文社新書：2019年初版発行）があります。筆者は、三菱総合研究所でコンサルティングに従事した後、現在は早稲田大学大学院経営管理研究科（ビジネススクール）教授で、競争戦略論、ビジネスモデルを専門とされています。著者は、米国を中心とした海外から輸入された数多くの経営手法・フレームワーク（＝ビジネス・フレームワーク）による経営戦略の分析・策定について、「その使い方によっては両刃の剣であり、誤った使い方によって意思決定が歪むこともある。作成者の主観や意思が入り込んでいることを知らずに意思決定していると大きなミスをしてしまうことがある」と忠告しています。しかし、ビジネス・フレームワークは、「今日より前に生まれた優秀な方々の英知が詰まっており、時代を超えて洗練されてきたものである。自らそれを考えようとする、とてつもない時間と労力を必要とする」ので、料理を食べる時のナイフとフォークのように巧く使い、経営戦略を考える時の手段と考えるべきとも述べています。本書では、経営戦略関係のフレームワークでは、例えば、PEST分析、SWOT分析など18、マーケティング関係ではポジショニングなど8、組織・人事関係ではコア・コンピタンスなど8、財務・M&A関係では3、その他で6と合計43項目について、具体的な使い方が解説されています。提案書の作成などでビジネス・フレームワークを利用する際に、所定の表の空欄を埋めるのに気を取られ、誤まった使いをしてしまうことがあるかもしれません。本書では、様々なフレームワークについて簡潔に触れられているので、読者にとって、それらを知る機会となると共に、正しい使い方をしていくための参考になるとおもわれます。

（松井正春 記）

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp （*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>